

# 大崎上島町教育の島交流基本構想

平成 30 年 3 月

広島県 大崎上島町



# 大崎上島町教育の島交流基本構想

## 目次

はじめに.....	1
-----------	---

---

第1章 基本構想の概要.....	2
------------------	---

---

1. 本構想策定の背景.....	2
2. 本構想の位置づけ.....	3
3. 本構想の目的.....	4
4. 本構想の策定体制.....	4
5. 本構想の期間.....	4

第2章 「教育の島」の現状と課題.....	5
-----------------------	---

---

1. 本町の教育関連施策.....	5
2. ヒアリング調査の実施.....	10
3. 「大崎上島町教育の島創造協議会」の開催.....	13
4. 分科会の開催.....	16
5. 座談会の開催.....	17
6. 構想説明会.....	18
7. 広報誌（学びの島の回覧板）の町民配布.....	18
8. 「教育の島」の推進における本町の強みと課題.....	20

第3章 本構想の基本方針 ..... 23

---

1. 本構想の骨格（スキーム） ..... 23
2. 基本理念 ..... 26
3. 基本目標～めざす「教育の島」のすがた ..... 26
4. 基本理念を具体化する施策の柱..... 27

第4章 施策の展開 ..... 33

---

1. 各基本施策における主な事業の展開 ..... 33
2. 本構想の展開シナリオ ..... 38
3. 本構想の推進体制..... 40

参考資料..... 41

---

1. 本町の教育関連施策の状況 ..... 42
2. 本町の主な教育機関等 ..... 45

## はじめに

大崎上島町では、平成 27 年 10 月 31 日に策定した「大崎上島町まち・ひと・しごと総合戦略」において、「多様な人材を育てる教育の島づくりを進める」ことを最重点政策として「教育の島」の推進に取り組んでいます。

このなかで、町内の認定こども園から高等専門学校まで、世代や枠組みを超えた交流を、さらには海外を含めた町外の教育機関との積極的な交流連携を通じて、町民全体の活発な人材交流・育成、ひいては、だれもがいきいきと暮らせる地域の実現をめざすことを目的に、「大崎上島町教育の島交流基本構想」を策定することと致しました。

本構想においては、大崎上島町のめざす「教育の島」の将来像について検討を行った結果、「教育の島」のとらえ方を、本町の地域資源や特性を踏まえてより具体化し、「学びのある島」として位置づけることとしました。

あわせて、町民と共有すべき「学びのある島」がめざす基本目標、さらに進むべき方向性とその実現に向けた施策体系について明らかにしました。

本構想に基づき、町民・町内外の教育関連機関・行政が一体となって、それぞれが役割を担いながら、新たな教育交流機会の創出及び交流の増大に取り組むことで、多様な人材を育てる「学びのある島」づくりをめざします。

平成 30 年 3 月

広島県 大崎上島町

# 第1章 基本構想の概要

---

## 1. 本構想策定の背景

### (1) 教育の島交流の役割

我が国は、2008年をピークに人口減少局面に入っています。さらに、地方から都市部への人口流出が続き、地域の担い手となる若者が減り、地域の暮らしや産業、伝統文化等、さまざまな面において影響をもたらしています。

本町においても、少子高齢化の傾向は変わらず、平成27年10月に策定した町人口ビジョンによると、このままの状況が続けば、現在の人口7,722人（平成29年12月末現在）から2060年には半数以下の人口3,010人となると推計されており、対応が待ったなしの状況です。

一方、Iターンをはじめとする移住者の増加や世界で活躍できるリーダーを育てるための全寮制中高一貫教育校である広島県立広島叡智学園<sup>1</sup>（平成31年開校）の誘致、アショカ<sup>2</sup>の認定を受けた社会起業家育成コースを持つ米国アトランティック大学<sup>3</sup>サテライトキャンパス<sup>4</sup>誘致構想の進展等、本町の持つ資源の魅力や可能性を感じ、国内外から多様な人材が流入してきています。

これは、「大崎上島学」をはじめとした、幼少期から教育機関等で行われる地域資源を活用した教育活動の充実にみられるように、本町の自然や歴史文化、島の暮らしそのものが教育的な価値を有しているからにはほかなりません。

本町においては、こうした地域の優位性を形成する地域資源の教育的価値をさらに高め、活用することにより、町内外の多様な人材交流を促進していくことで、地域の課題解決に取り組むことが求められています。

本構想は、こうした「教育の島交流」の取り組みを通じて本町が「大崎上島町第2次長期総合計画」で掲げる「海景色の映えるまち～地域資源を活かした理想郷の実現～」を達成する上での指針としての役割を果たすものです。

---

<sup>1</sup> 広島県立広島叡智学園：社会の持続的な平和と発展に向け、世界中のどこにおいても、地域や世界の「より善い未来」を創造できるリーダーの育成をめざして広島県が取り組む「学びの変革」を先導的に実践する学校。平成31年4月開校。

<sup>2</sup> アショカ：正式名称/Ashoka: Innovators for the Public。世界規模で社会起業家等の育成に取り組む国際団体。

<sup>3</sup> 米国アトランティック大学：社会起業家を育成する大学として、米国メーン州マウントデザート島に設立。「アショカ（Ashoka）」の認定を受けている。

<sup>4</sup> サテライトキャンパス：大学や大学院等の本部から離れた場所に設置された校舎、研究施設などの拠点。

## (2) 国・県の動向と本町のまちづくりの基本方向

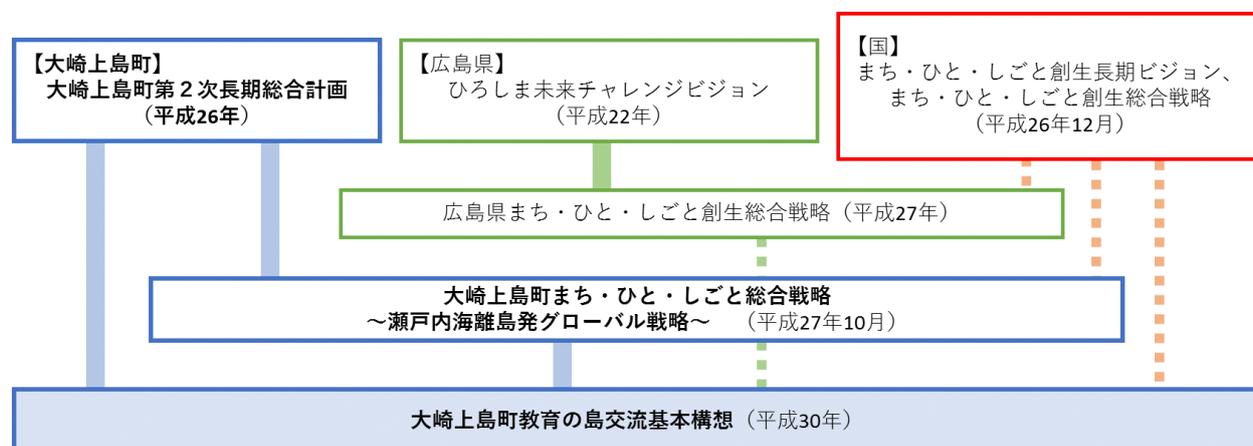
国においては、平成26年12月、人口急減・超高齢化に対し、各地域が特徴を活かし自律的で持続的な社会を創生することを目指した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の閣議決定がなされました。

また、広島県においては、平成22年「ひろしま未来チャレンジビジョン<sup>5</sup>」で掲げた取り組みのうち、地方創生に関する施策をまとめ、人口減少問題を克服し地方創生を推進するため、平成27年「広島県まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されました。

本町においても、平成27年10月「大崎上島町まち・ひと・しごと総合戦略～瀬戸内海離島発グローバル<sup>6</sup>戦略～」を策定し、『多様な人材を育てる教育の島づくりを進める』『新たな人の流れで住んでよかったと実感できる』『地域資源を活かして仕事と産業を育てる』『癒しと元気な地域で安心して暮らす』の4つの政策分野を掲げ、まちづくりを進めています。

## 2. 本構想の位置づけ

本構想は、町政の最上位計画である「大崎上島町第2次長期総合計画」及び「大崎上島町まち・ひと・しごと総合戦略～瀬戸内海離島発グローバル戦略～」に基づき、策定するものです。



( 実線：直接的関係 点線：間接的關係 )

<sup>5</sup> ひろしま未来チャレンジビジョン：人口減少・少子高齢化、グローバル化の進展などの変化が進む中において、広島県の目指す姿(将来像)を県民と共有し、一緒に、新たな広島県づくりを推し進めるために、策定したビジョン。

<sup>6</sup> グローバル：地球規模、世界的規模。

### 3. 本構想の目的

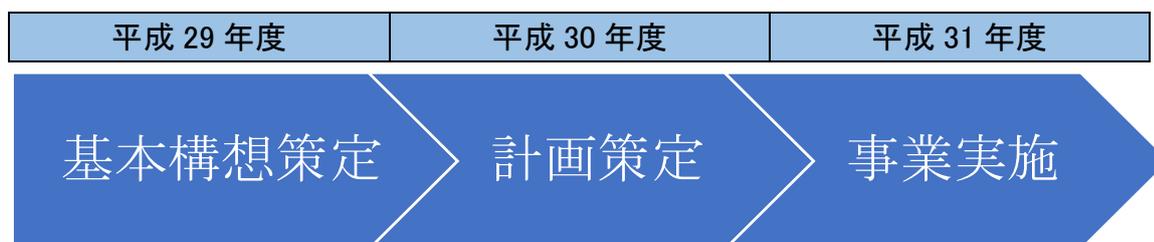
本構想は、「大崎上島町まち・ひと・しごと総合戦略～瀬戸内海離島発グローバル戦略～」における最重点政策として位置づける『多様な人材を育てる教育の島づくりを進める』ことをめざす『「教育の島」の推進』の指針となるもので、町内のあらゆる世代や関係機関、地域等をはじめ、国内・海外の教育機関との積極的な交流・連携を通じて、「島の将来を担う人材の育成」や「関係人口の拡充」を図ることで、本町の学びの環境の充実のみならず地域社会と地域経済の活力向上に資することを目的として策定するものです。

### 4. 本構想の策定体制

本構想は、町、学識経験者、学校教育関係者等で構成された「大崎上島町教育の島創造協議会」での検討・審議に加えて、「分科会」「座談会」「構想説明会」「広報誌（学びのある島回覧板）」「町広報」等の場を通じた町民意見を踏まえて、策定しました。

### 5. 本構想の期間

本構想は、当面平成 31 年度までを目処とし、本町及び本町を取り巻く教育政策動向、社会経済の変化などを踏まえ、必要に応じて見直しや改訂を行うものとします。



## 第2章 「教育の島」の現状と課題

---

### 1. 本町の教育関連施策

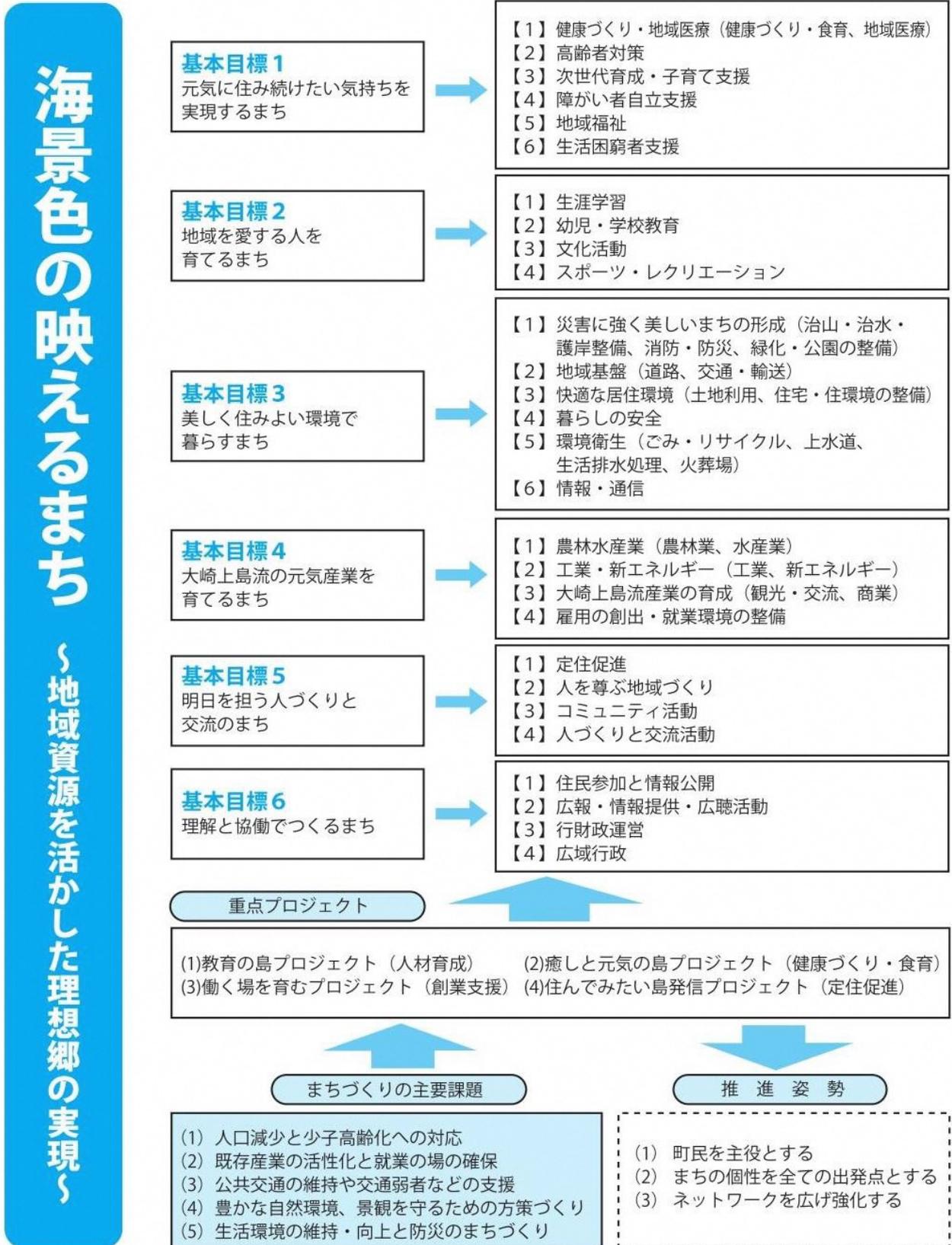
#### (1) 本町各種計画における主な取り組み

本町では、「大崎上島町第2次長期総合計画」を町政の最上位計画とし、その上で地方創生の指針である「大崎上島町まち・ひと・しごと総合戦略」、このほか「教育の島」にかかる関連計画等を策定・推進しています。各計画等の概要は以下のとおりです。

#### ① 大崎上島町第2次長期総合計画

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>■ 計画の概要</li><li>■ 策定年度 平成26年度</li><li>■ 計画期間 平成27年度～平成36年度までの10カ年</li></ul> |
|---|

■ 施策の体系 (「大崎上島町第2次長期総合計画」より掲載)



## ② 大崎上島町まち・ひと・しごと総合戦略

### ■ 計画の概要

- 策定年度 平成 26 年度
- 計画期間 平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 カ年
- 基本理念 海景色の映えるまち～地域資源を活かした理想郷の実現～  
（「大崎上島町第 2 次長期総合計画」の将来像と基本理念を踏襲）

### ■ 施策の体系

- 【政策分野 1】 多様な人材を育てる教育の島づくりを進める《ひと創生》  
政策目標：新たな教育体系の整備、新たな教育機関の誘致 平成 27～31 年度 1 箇所以上
- 【政策分野 2】 新たな人の流れで住んでよかったと実感できる《ひと創生》  
政策目標：移住者の増加 平成 27～31 年度 75 世帯 150 人
- 【政策分野 3】 地域資源を活かして仕事と産業を育てる 《しごと創生》  
政策目標：新規就業者の増加 平成 27～31 年度 50 人
- 【政策分野 4】 癒しと元気な地域で安心して暮らす 《まち創生》  
政策目標：子育て支援・安心・安全対策・住環境整備による転出数の減少  
平成 26 年 328 人より減少

## ③ 大崎上島町教育大綱

### ■ 大綱の概要

- 策定年度 平成 27 年度
- 計画期間 平成 27 年度から平成 31 年度まで 5 カ年
- 目標 ふるさとを愛し 大崎上島の未来を担う 人材の育つまち

### ■ 施策の体系

- 【1】生涯学習  
《基本方針》  
生涯学習の目的を、生活文化の振興・社会福祉の増進に寄与することと捉え、生涯にわたる自己啓発と社会参加を推進することにより、いきいきした暮らしの実現を図ります。町民の自主的な学習活動を支援し、それらの活動をつなぐことによって、「学びあい、支えあう」社会づくりを推進します。

## ■【2】 幼児・学校教育

### 《基本方針》

「大崎上島町教育推進プラン」による教育を推進し、本町で学び、育っていく子どもたちがふるさとを愛し、誇りを持って次代の担い手としてたくましく成長できるように、学校と家庭、地域が連携しながら、子どもの育つ教育環境の充実を図ります。

## ■【3】 文化活動

### 《基本方針》

文化・芸術は、こころの豊かさを養い、日常生活の質を向上させることにも通じると考え、町民の主体的な文化・芸術活動を支援します。さらに、大崎上島文化センターを拠点として、文化・芸術への関心を高める催しを行います。また、郷土の歴史や文化を学ぶことが未来へ向けてまちづくりの糧となると認識し、歴史的資産の保存と伝承に努めるとともに、生活文化の掘起しに取り組みます。さらに、文化活動に関わる人々の交流や協働を促すための支援も推進します。

## ■【4】 スポーツ・レクリエーション

### 《基本方針》

子どもから高齢者まで、いつでも、だれでも、どこでも気軽に運動できる環境づくりに取り組みます。このため、関係機関と連携を図りながら、活動の場の拡充、指導者の育成を図り、町民のスポーツ活動を支援します。

## ④ 大崎上島町教育推進プラン・大崎上島町教育ビジョン

本町の将来を担う子どもたちの人間力を育成し、大崎上島の自然・歴史・伝統文化・産業・暮らしを探求する「大崎上島学」を基盤に、中・長期的な視点をもって、特色ある教育を推進することとし、「大崎上島の将来を担う たくましく生きぬく子どもの育成 目標とする子ども像・信頼される学校の実現」を達成するため、取り組みを進めています。

### ■ 同プランに位置づけられている「大崎上島学」の概要

#### ○ 「大崎上島学」の目的

ふるさとに誇りを持ち、大崎上島の将来を担う子どもたちを育てることを目的とします。

○「大崎上島学」の目標

- ・教育活動全体を通じて、ふるさと大崎上島を学ぶことによって地域のすばらしさに気づかせ、地域を誇りに思う心を育てる。
- ・地域の人材やネットワークとの強い絆を作り、相互に連携して地域の発展に貢献する態度を育てる。
- ・学びから得たエネルギーを「知・徳・体」の力に変換させる能力を育てる。

○「大崎上島学」の実際

教科領域学習の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を学ぶカリキュラム<sup>7</sup>の創造（総合的な学習の時間等）</li> <li>・地域教材・地域人材の活用</li> </ul>
各種教育の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域から学ぶキャリア教育<sup>8</sup>（地域産業と職業観・勤労観）</li> <li>・地域から学ぶ食育（生産者との交流、郷土料理づくり）</li> </ul>
学校行事の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事を通してふるさと大崎上島への帰属意識と良好な人間関係の育成</li> <li>・地域へ貢献する学校行事（ボランティア活動）</li> </ul>
地域行事の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事への参加・連携（各地域伝統行事）</li> <li>・地域のスポーツ・文化的活動との連携</li> </ul>

<sup>7</sup> カリキュラム：一定の教育の目的に合わせて教育内容と学習支援を総合的に計画したもの。

<sup>8</sup> キャリア教育：一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

## 2. ヒアリング調査の実施

本構想策定に向けた基礎調査として、教育関係者等の「教育の島交流」に対する意向（期待や課題）を把握することを目的に、以下の概要によりヒアリング調査を実施しました。

### (1) ヒアリング調査の実施概要

#### ①ヒアリング調査のテーマ

本ヒアリング調査は、下記の4つのテーマに基づき実施しました。

##### 【ヒアリング調査の4テーマ】

- |                  |
|------------------|
| ①「大崎上島町全般に関すること」 |
| ②「学校教育現場に関すること」  |
| ③「子どもの育成に関すること」  |
| ④「交流に関すること」      |

#### ②ヒアリング調査の実施状況

本ヒアリング調査の実施状況は以下のとおりです。

※敬称略。所属・役職等は当時

NO	実施日	対象者
1	平成29年 3月7日	大崎上島町 町長 高田幸典
2	同 3月8日	大崎上島町教育委員会 教育長 出口一伸
3	同 3月13日	広島県教育委員会 教育部 学びの変革推進課 課長 寺田拓真
4	同 3月14日	社会福祉法人 神峰福祉会 認定こども園ひかり園 園長 澁谷祥三
5		学校法人 正光坊学園 ルンビニ幼稚園 園長 不二川晃
6		大崎上島町立 大崎小学校 校長 谷川敏樹（大崎幼稚園園長 兼務）
7		独立行政法人 国立高等専門学校機構 広島商船高等専門学校 校長 辻啓介
8	同 3月15日	広島県立 大崎海星高等学校 校長 大林秀則
9		大崎上島町立 東野小学校 校長 平田修
10		大崎上島町立 木江小学校 校長 川口耕史（木江幼稚園園長 兼務）
11	同 3月16日	大崎上島町立 大崎上島中学校 校長 吉岡克昭

12	同 3月22日	一般社団法人 東アジア初のアショカU発足・設立を支援する会 代表理事 長尾ひろみ
----	---------	---

### ③ヒアリング調査結果の整理

ヒアリング調査実施結果を整理した各テーマの要点は以下のとおりです。

(典拠「大崎上島町教育の島交流基本構想(仮称)基礎資料」

平成28年度：大崎上島町)

#### ■要点1 『大崎上島町全般に関すること』

- 「大崎上島町教育の島交流基本構想」は、「大崎上島町第2次長期総合計画」を上位計画とする『教育の島プロジェクト(人材育成)』を目的とする交流構想として位置づけることが求められます。
- 『教育の島』が示すビジョンを明らかにし、大崎上島町全体で共有する必要があります。
- 大崎上島町が抱える地域課題に対しては共通した危機感を持っており、大崎上島町が一体となって課題に取り組む必要性を感じています。

#### ■要点2 『教育現場に関すること』

- 大崎上島町には誇るべき学びの環境(人情や自然等)があり、教育推進プランに基づいた取り組みによる成果も評価されています。この現状を維持するだけでなく、状況にあわせた前向きな変化も現れています。
- 広島県立広島叡智学園や一般社団法人東アジア初のアショカU発足・設立を支援する会(以下、略称「AUST」)といった、『教育の島プロジェクト(人材育成)』にとって大きなインパクト<sup>9</sup>となる動きが展開されていますが、情報共有が十分でないとの意見があります。

<sup>9</sup> インパクト：衝撃。影響。

### ■要点3 『子どもの育成に関すること』

- 『教育の島プロジェクト（人材育成）』は、島の将来を担う子どもを中心とするが、広く町民全体を対象としています。
- コミュニケーション能力<sup>10</sup>を身に付ける機会が不足しています。
- 教育行政及び町内教育機関において実施されている、コミュニケーション能力向上を図る取り組みを補完する「多様な交流機会」の創出が必要です。

### ■要点4 『交流に関すること』

- 『教育の島プロジェクト（人材育成）』において『交流』は重要な要素です。
- 『交流』を地域や町内外の多様な組織や人材が関わる多様性のある活動として位置づけます。
- 『交流』を推進する上では、「無関心」「制度の壁」「コスト」「相互の理解不足」「情報の不足」といった課題が想定されます。

---

<sup>10</sup> コミュニケーション能力：他者とコミュニケーションを上手に図ることができる能力。

### 3. 「大崎上島町教育の島創造協議会」の開催

本構想策定にあたり、学識・知見を有する専門家の参画を得て、本町の教育に関する現状に則した提言を受け、構想原案の検討を進める機関として、「大崎上島町教育の島創造協議会」（以下、「協議会」と表記）を設置し、下記の概要により開催しました。

#### (1) 協議会の役割

協議会は、町内の教育機関における世代や枠組みを超えた交流や、更には海外を含めた町外の教育機関と積極的な交流連携を図ることなどを通じて、「大崎上島町第2次長期総合計画」の重点プロジェクトである『教育の島プロジェクト（人材育成）』を推進するとともに、「大崎上島町まち・ひと・しごと総合戦略」における「多様な人材を育てる教育の島づくり」を実現するため、以下の事項にかかる協議等を行う役割を担います。

- ①「大崎上島町教育の島交流基本構想（仮称）」に関する事
- ②大崎上島町の教育機関等の交流の増大、発展に関する事
- ③その他大崎上島町の「教育の島プロジェクト（人材育成）」の推進に関する事

#### (2) 協議会の構成

協議会の委員は下表のとおりです。

※敬称略。所属・役職等は当時

組 織	氏 名	所 属	備 考
保育園	澁谷 祥三	社会福祉法人 神峰福祉会 認定こども園ひかり園	
幼稚園	不二川 晃	学校法人 正光坊学園 ルンビニ幼稚園	
小学校	川口 耕史	大崎上島町立 木江小学校	平成 28 年度校長会長（公立幼稚園園長兼務）
	平田 修	大崎上島町立 東野小学校	
中学校	吉岡 克昭	大崎上島町立 大崎上島中学校	
高等学校	大林 秀則 中原 健次	広島県立 大崎海星高等学校	
高等専門学校	辻 啓介	独立行政法人 国立高等専門学校機構 広島商船高等専門学校	
中高一貫高等学校	寺田 拓真	広島県教育委員会 学びの变革推進課	

大学（誘致）	長尾 ひろみ	一般社団法人 東アジア初のアショカU発 足・設立を支援する会	
町	高田 幸典	大崎上島町長	

### （3）協議会の開催状況

実施日	主な議事
平成 29 年 3 月 30 日	≪平成 28 年度 第 1 回≫ ■協議会設立趣旨及び協議会設置要綱の説明 ■「大崎上島町教育の島交流基本構想（仮称）」基礎資料等作成業務報告 ■平成 29 年度以降の協議会開催について
同 5 月 26 日	≪平成 29 年度 第 1 回≫ ■「大崎上島町教育の島交流基本構想（仮称）」の策定について（議題）
同 7 月 24 日	≪平成 29 年度 第 2 回≫ ■「大崎上島町教育の島交流基本構想（仮称）」のビジョンについて ■協議会の進め方について
同 11 月 6 日	≪平成 29 年度 第 3 回≫ ■「大崎上島町教育の島交流基本構想（案）」の検討
平成 30 年 1 月 10 日	≪平成 29 年度 第 4 回≫ ■「大崎上島町教育の島交流基本構想（案）」の検討
平成 30 年 2 月 23 日	≪平成 29 年度 第 5 回≫ ■「大崎上島町教育の島交流基本構想（案）」の検討
平成 30 年 3 月 12 日	≪平成 29 年度 第 6 回≫ ■「大崎上島町教育の島交流基本構想（案）」の検討・承認

### （4）協議会における意見等の要点

#### ■要点 1 『大崎上島町の「学び」の価値』について

- 「教育」ではなく「学び」と表現することで、学校教育や社会教育だけでなく、島の暮らしや仕事の中で伝えられてきたさまざまな創意工夫や知恵等、島の暮らしのなかに息づく学びの重要性を表現することが必要です。
- 都市部では学びを通じたチャレンジを行う場合、激しい同業者間の競争、コストの上昇などの要因で「実現できない」ことが多いのに対し、本町には多様なチャレンジを実践できる可能性があります。

## ■要点2 「本構想の目標」について

- 「学びのある島」の活動を通じて、最終的には島の交流人口や定住人口を増やすことと、その結果、地域に経済効果が生まれることが目標です。この目標を町民と共有することが重要です。

## ■要点3 「本構想の理念」について

- 島の学びには新たな発見がある、というイメージを「ひかりあふれる」といった言葉で表現できます。
- 「学びのある島」とすることで、この島には学びを大切にする暮らしがあることを表現できます。

## ■要点4 『本構想における「学び」の主体』について

- 子ども、若者から大人まで自ら積極的に学ぶことのできる島をめざします。

## ■要点5 「保育機関における取り組み」について

- 保育機関でも他施設や学校との交流に積極的に取り組んでいく必要があります。

## ■要点6 『「大崎上島学」の意義』について

- 「大崎上島学」で島の歴史を学ぶなかで島の未来を考える機会をもつことで、島に暮らすことへの誇りの醸成につながることになります。

## ■要点7 「町民の理解醸成・参画促進」について

- 「教育の島」が、どのように町の発展につながるのかイメージを共有することが必要です。

## ■要点8 「情報共有の手法」について

- 取り組みの広報等の情報共有には、普段から保護者などが利用している SNS での展開が有効です。

## ■要点9 「構想の推進体制」について

- 町・教育関係機関・町民等の協働により本構想の推進が求められるため、それぞれの役割を明確にする必要があります。

## 4. 分科会の開催

本構想を推進するプレーヤーとして期待される層に呼びかけ、構想の可能性について意見を求める機会として開催しました。

### (1) 分科会の開催状況

NO	実施日	対象者
1	平成 29 年 7 月 3 日	《第 1 回》 ■参加者：10 名 ■テーマ：町民視点での教育の島ビジョン検討
2	同 7 月 10 日	《第 2 回》 ■参加者：10 名 ■テーマ：町民視点での教育の島ビジョン検討
3	同 8 月 9 日	《第 3 回》 ■参加者：10 名 ■テーマ：教育の島交流の推進にあたっての、町民視点での課題及び解決策の検討

### (2) 分科会における意見等の要点

#### ■要点 1 「構想全般」について

- 世代を超えてお互いに学びあうという「学びのある島」の考え方に共感しています。
- この島の学びの特徴は教科書では学べない、島の人の経験や暮らしのなかにあると感じています。
- 自分で問題を見つけ解決する力を身につけていく学びが必要です。

#### ■要点 2 構想の推進について

- 町民が構想に参加したくなるような「関りしろ」が必要です。
- 子どもの島を愛する心を育てるには、大人が島を誇りに思う気持ちが必要です。

### ■要点3 本町の教育について

- 大崎海星高校は生徒数が急回復し、島親制度等も注目されています。
- 修学旅行生を受け入れる民泊登録が170世帯あり、町民が協力しています。

### ■要点4 移住者の気づきを活かす視点について

- 島の良さは、島に住んでいる人よりも移住してきた人が気づくことが多いと思います。
- 島に関わる人、縁のある人の存在そのものが宝物です。

## 5. 座談会の開催

本構想策定に向けた町民との情報共有と意見交換を行う機会として「座談会」を開催しました。

### (1) 座談会の開催状況

回	実施日	参加者
《第1回》	平成29年12月7日	移住者の町民若手(20代~30代) 4名
《第2回》	平成29年12月19日	大崎上島町観光協会 理事会 15名
《第3回》	平成30年1月18日	HAPPY シマ2 定期会 5名
《第4回》	平成30年1月18日	FF アイランド大崎会 定例会 12名
《第5回》	平成30年1月21日	広島県在住のデザイン、建築デザイン会社の経営者 3名
《第6回》	平成30年1月24日	大崎上島町公営塾スタッフ会議 4名

### (2) 座談会における意見等の要点

#### ■要点1 構想全般について

- 構想の全体像、事業の進め方、町民みんなの関わり方を共有することが大切です。

#### ■要点2 情報共有・情報発信

- 情報を共有できる情報発信のフォーマットが必要です。
- みんなで意見を出し合い、紙媒体、WEBメディアなどについて考える機会が必要です。
- 学びの情報の集約と発信が必要です。

## 6. 構想説明会

本構想原案について説明し、町民との意見交換を行う機会として開催しました。

## 7. 広報誌（学びのある島回覧板）の町民配布

本構想策定にかかる情報を町民と共有することを目的に、広報誌（学びのある島回覧板）を作成し、全戸回覧しました。

（次ページに媒体物を掲載。）

おおさきかみじま

1  
月号

# 学びの島回覧板

## 動き出しています。学びのある島

### ビジョン VISION

「教育の島」は、大崎上島町に暮らす人、関わる人や組織が目指す町のあるべき姿です。  
「教育の島」づくりを通して、町に暮らそうとする人、関わり続けようとする人たちに、  
「学びのある島」を託します。

大崎上島町の文化や歴史、人々の暮らしを「学び」なおすことによって、  
町を再評価し、その成果を町に関わるすべての人や組織で共有します。

大崎上島町での「学び」の中で、世界に活躍する人が育ち、「学び」の場としての町は  
「教育の島」となり、教育を核とした地域づくりは、町に真の意味の「活力」をもたらします。

### { ひかりあふれる「学びのある島」へ }

## 町民の語り合いがある島へ

離島には、メリットやデメリットという尺度にはそぐわない個性  
があります。便利・不便を超えた語り合いが「学びの  
ある島」への第一歩です。大崎上島町教育の島創造協  
議会（以下、協議会）は、議論のプロセ  
スを大切にしています（下図）。現在、  
大崎上島町では、高校の魅力化事  
業、広島淑智学園の設置、AUST による新大  
学構想など、教育に関わる様々な取り組みが進め  
られています。その状況を町の人々と共有し、「プロ  
セス」から語り合いを創りだしていこうとしています。教  
育の島交流基本構想は、これまでの行政のあり方を見直し、  
新たな行政のあり方を創造していくプロセスでもあります。

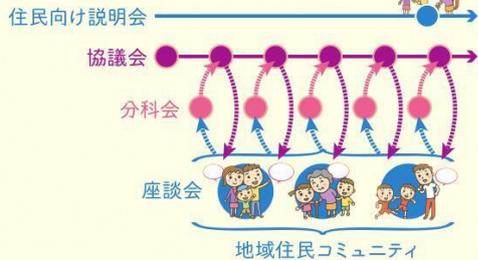


**教育の島—大崎上島**  
大崎上島町に溢れる学びの素材、町  
の環境、産業や文化、私たちのくら  
しそのものが学びの教材です。

## 意見を集約し、 発信する場—協議会

協議会は、会長である町長をはじめとして、  
各教育機関の長、新大学構想関係者な  
どから構成されています。すでに4回の  
協議を終え、構想案の骨子を作成中です。分  
科会では意見をいただき、座談会では協議会  
での議論をお知らせし意見交換を行っていま  
す。協議会では、独自の調査や見解だけでは  
なく、分科会や座談会で出された意見や考え  
を集約し、次世代に託すに値する「学びのあ  
る島」構想を検討しています。

### 策定に向けたプロセスのイメージ



分科会の様子(平成29年7月)  
いま、大崎上島町の「学び」の現状は？  
「教育の島」とかけて、町の将来をどの  
ように展望するか、などを話し合いま  
した。



第3回大崎上島町教育の島創造協議会の様子  
(平成29年11月6日開催)

大崎上島町では、町の総合戦略において「多様な人材を育てる教育の島づくり」を進め  
ています。このたびその将来像を明らかにし、人材の育成や関係人口の拡大を図っていく  
ための[「教育の島」交流基本構想]を策定します。本構想の策定にあたり、町民の皆様  
からのご意見を募集します。詳しくは、町HPでご確認ください。



発行

2018年1月  
大崎上島町 総務企画課 企画調整係  
〒725-0231 広島県豊田郡大崎上島町東野6625番地1  
☎0846-65-3112

## 8. 「教育の島」の推進における本町の強みと課題

前述のヒアリング調査、協議会、分科会、座談会等での意見に基づき、本構想策定にかかる「本町の強み」「本町の課題」について、社会全体の変化要因などを勘案し、以下のとおりに整理しました。

### (1) 「教育の島」にかかる本町の強み

#### ① 本町の学びの強み

- 島の暮らしや仕事の中で伝えられてきたさまざまな創意工夫や知恵等、島の暮らしが育んだ固有の学びの資源が豊富で、それを伝える人（町民）がいます。
- 町内の課題に対応した社会課題解決型ビジネス<sup>11</sup>など、学びの成果を活かすさまざまなチャレンジに取り組むことが可能です。

#### ② 本町の教育等の強み

- 島の有する豊かな自然や歴史文化、教育資源が評価され、先駆的な教育理念により未来の社会形成に資する人材育成をめざす学校教育機関が開設します。
- 町内学校教育機関において、町の歴史や現在のすがたを学び、課題を発見し、町民や関係者との協働により課題解決策を考え、実践する「大崎上島学」の活動が進められています。
- 大崎海星高校では町外からやってきた生徒の暮らしを支える島親制度が運用されています。
- 三原特別支援学校大崎分教室が特別支援教育のセンター的役割を担っています。
- 町内の高等教育機関である広島商船高等専門学校では、専門的な体験重視型の教育を行い、全国各地から学生が集まっています。

#### ③ 多様な交流や移住定住に関する強み

- 島の魅力に共感した若者を中心とする移住者が増加しています。
- 民泊登録世帯が多数あり、修学旅行生等に島の暮らし体験の機会を提供しています。

---

<sup>11</sup> 社会課題解決型ビジネス：現代社会の様々な分野において発生している解決すべき問題などの社会課題を解決する、または解決する過程で行われる提案や活動や行為を事業として行うこと。

## (2) 「教育の島」にかかる本町の課題

### ① 「教育の島」に取り組むための課題

- 町民全体に「教育の島」への理解を深めてもらえるよう、情報発信を行うことが必要です。

### ② 多様な交流と移住定住に関する課題

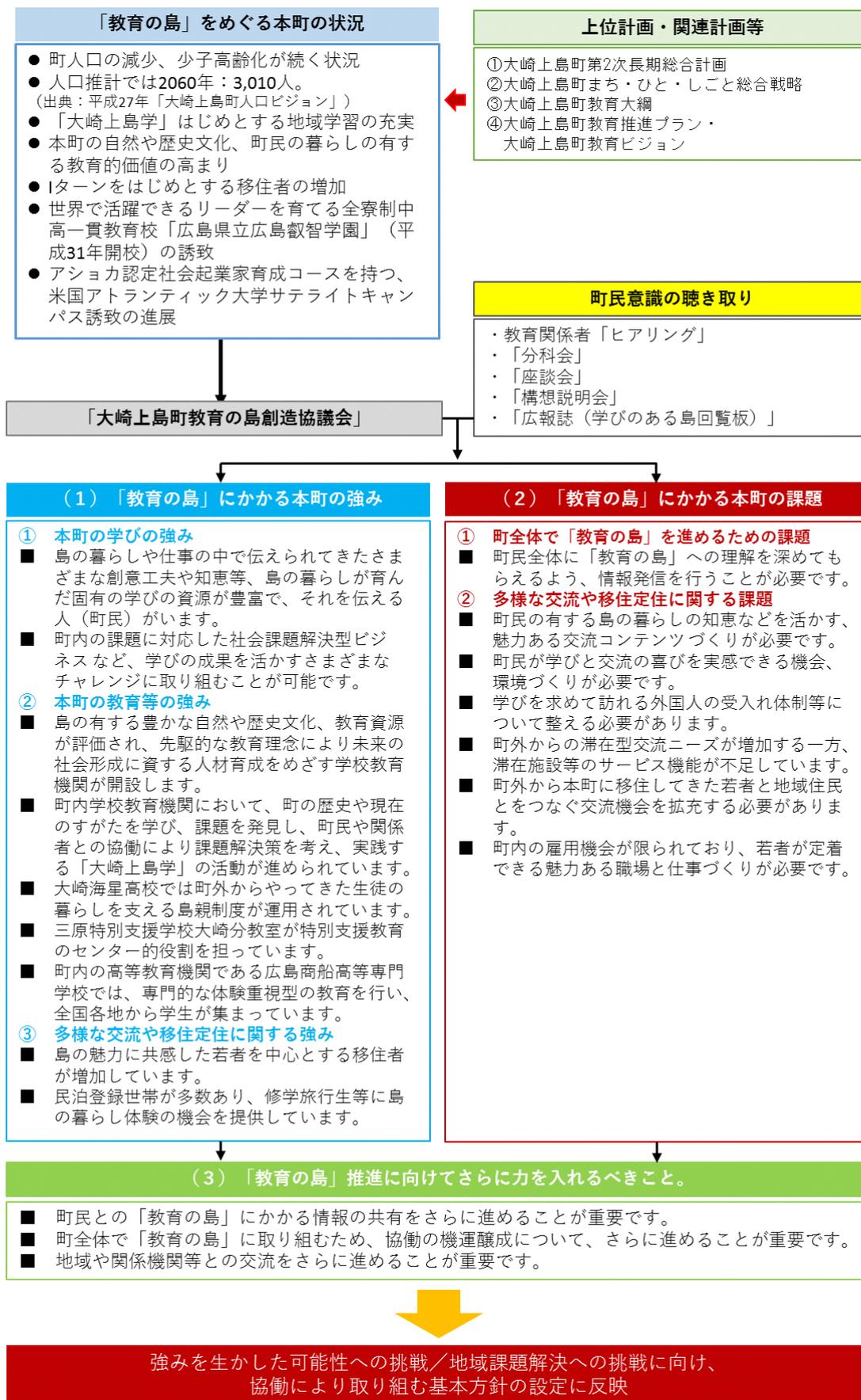
- 町民の有する島の暮らしの知恵などを活かす、魅力ある交流コンテンツ<sup>12</sup>づくりが必要です。
- 町民が学びと交流の喜びを実感できる機会、環境づくりが必要です。
- 学びを求めて訪れる外国人の受入れ体制等について整える必要があります。
- 町外からの滞在型交流ニーズが増加する一方、滞在施設等のサービス機能が不足しています。
- 町外から本町に移住してきた若者と地域住民とをつなぐ交流機会を拡充する必要があります。
- 町内の雇用機会が限られており、若者が定着できる魅力ある職場と仕事づくりが必要です。

## (3) 「教育の島」推進に向けて今後さらに力を入れるべきこと。

- 町民との「教育の島」にかかる情報の共有をさらに進めることが重要です。
- 町全体で「教育の島」に取り組むため、協働の機運醸成について、さらに進めることが重要です。
- 地域や関係機関等との交流をさらに進めることが重要です。

<sup>12</sup> コンテンツ：「内容」「中身」のこと。現代では「情報の中身」として用いられる。

## ■本構想策定にあたっての前提の整理



## 第3章 本構想の基本方針

---

### 1. 本構想の骨格（スキーム<sup>13</sup>）

本構想の策定にあたり実施した、「大崎上島町教育の島創造協議会」での協議をはじめ、自由な意見交換の場である「分科会」や町民の参加を募っての「座談会」などでのさまざまな提言を踏まえ、本構想策定にあたっての骨格（スキーム）を以下のように整理しました。

さらに、この構想の骨格（スキーム）をもとに、本構想の基本方針（基本理念、基本目標、基本シナリオ）を設定しました。

#### （1）本構想における「学び」<sup>14</sup>とは

---

本構想の「学び」とは、学校教育、社会教育といった『教育施策としての専門性を有する領域』にとどまらず、町民一人ひとりが伝え、育んでいる“暮らしの知恵”“創意工夫”などの『島の暮らしが生んだ知の領域』を含めた包括的な考え方としてとらえることとします。

#### （2）2つの「学び」の相乗性の発揮

---

本構想では、「学び」を構成する『教育施策としての専門性を有する領域』の取り組みと、『島の暮らしが生んだ知の領域』の取り組みの双方を有機的につなぎ、相乗性を高めるよう工夫します。

#### （3）本構想推進の主役

---

本構想推進の主役は、本町で学ぶ子ども・若者、町、教育関係者、町内各種団体（各産業別団体・NPO等公益性を有する団体）、そして町民一人ひとりです。

さらに、この島の学びに関心をもって島を訪ね、つながりをもつすべての人たちも、その一員となります。これを「島の学びがつくる関係人口」としてとらえ、多様な担い手・関わり手の創出をめざします。

---

<sup>13</sup> スキーム：計画等の枠組み。

<sup>14</sup> 本構想における「学び」：本構想では、学校教育及び学校教育を取り巻く環境を指す場合を「教育環境」とし、島の人と知に関わる学びの資源及び資源活用プログラムなどを指す場合を「学びの環境」と表記します。

#### (4) 本構想の主役たちをつなぐ手法

---

本構想推進の主役である構成メンバー（上記「3. 本構想推進の主役」参照）が、相互につながり、ともに学びを享受し、創発する環境を生み出していくため、「学びを分かち合う交流機会」と「情報共有」を重視します。

#### (5) 本構想推進により期待される地域効果

---

本構想の推進により、以下のような効果が期待されます。

##### ① 「教育の島」の価値の向上

町内の学校教育機関と町、町民等の連携と協働により、新しい時代にふさわしい学びの環境と「教育の島」の価値がいっそう高まることが期待されます。

##### ② 地域社会効果の創出

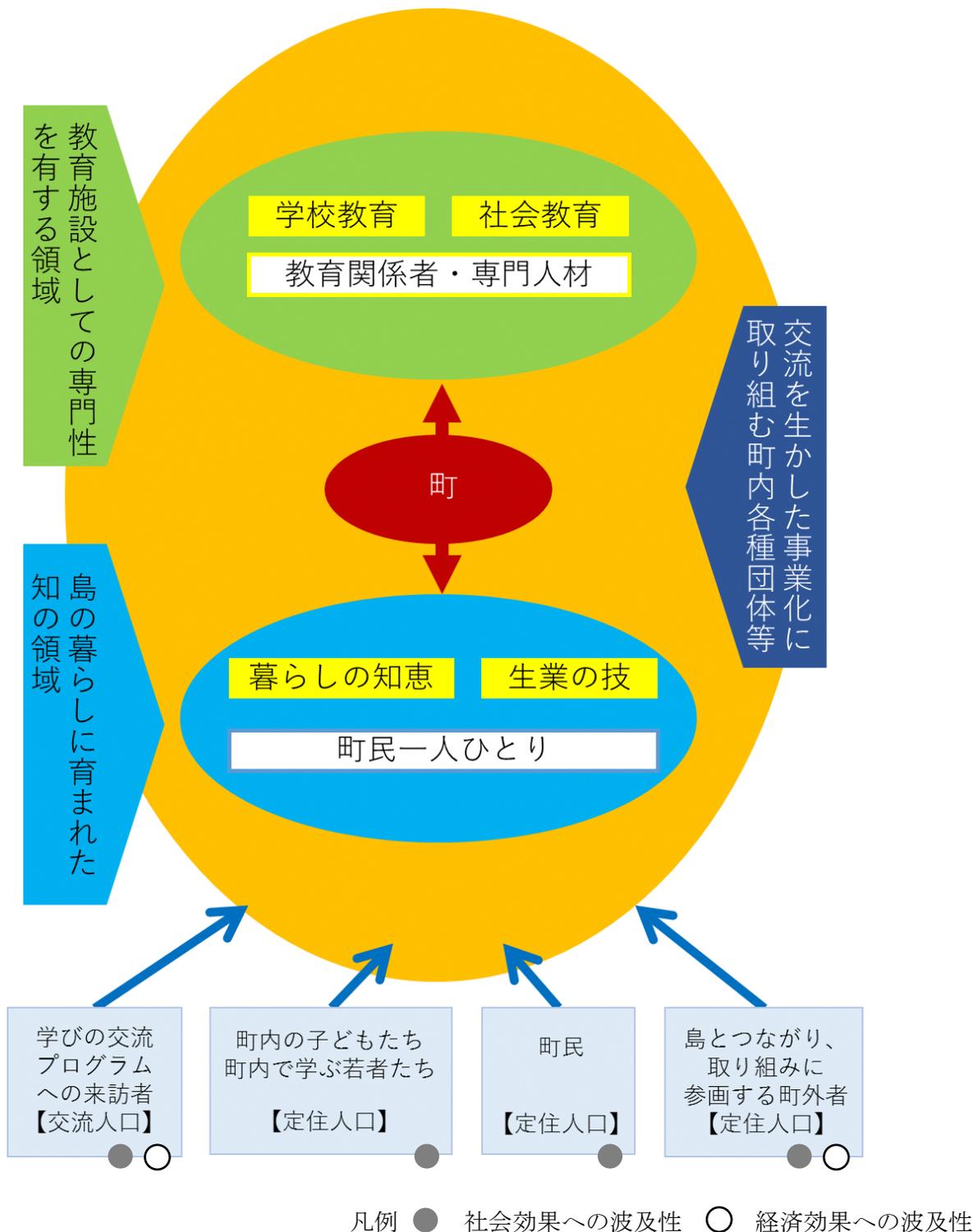
「学び」を基軸とする多様な交流の展開等により、多様性にあふれた学びと交流の喜びを実感できる地域コミュニティの創出が期待されます。

##### ③ 地域経済効果の創出

「学び」の交流コンテンツの魅力化が図られることにより、来訪者や滞在者の増加が促進され、地域経済活動による産業振興や雇用機会の創出が期待されます。

■本構想の骨格（スキーム）図

本構想における「学び」の領域



## 2. 基本理念

本構想の基本理念を『ひかりあふれる「学びのある島」へ』とし、多様な交流により、町内外の人材がともに学びあうことで、町の存在価値（プレゼンス）を高め、世界とつながる「教育の島」の創出を図ります。

### 基本理念

ひかりあふれる「学びのある島」へ

## 3. 基本目標～めざす「教育の島」のすがた

本構想の掲げる基本理念『ひかりあふれる「学びのある島」へ』に基づく施策を展開することによって達成をめざす「教育の島」のすがたを、以下の3つの基本目標として設定します。

### (1) 郷土に誇りを持てるまち

---

本町の美しい自然や歴史文化、暮らしの知恵の豊かさを大切にし、郷土を誇りに思う心が育つまちをめざします。

### (2) 世界とつながるまち

---

国内外の多様な人々が『ひかりあふれる「学びのある島」へ』来訪し、交流を通じて世界に開かれたまち、多様性を大切にしたい人のにぎわいが生まれるまちをめざします。

### (3) 活力を創造するまち

---

本町での学びをもとに、社会課題の解決や新たな価値創造に挑戦し、新たな活力を創造するまちをめざします。

基本目標は、基本理念を具体的に展開する上での3つの側面として位置づけ、「(1) 郷土に誇りを持てるまち」と「(2) 世界とつながるまち」の達成により、「(3) 活力を創造するまち」の実現をめざすこととします。

#### 4. 基本理念を具体化する施策の柱

本構想の基本理念『ひかりあふれる「学びのある島」へ』を具体化する上で、以下の4つの施策の柱を基軸として体系化を図ることとします。

##### 基本理念を具体化する施策の柱

(1) 「学びのある島」ブランドの構築  
～誇りを育み、関わりたくなる魅力づくり

(2) 未来を担う人材育成環境の充実  
～人がかがやく教育環境づくり

(3) 学びの資源を活かした交流機会の拡充  
～学びを生かした交流事業づくり

(4) 町民生涯学習機会の拡充  
～学びとつながりの喜びを実感できる環境づくり

## (1) 「学びのある島」ブランドの構築 ～誇りを育み、関わりたくなる魅力づくり

本町には、豊かな自然や歴史文化等、暮らしに関わる多様な地域資源があり、国内外から高く評価されはじめています。

本町における特徴ある学校教育機関、「大崎上島学」などの活動、島の暮らしの知恵などを包括的にとらえた「学び」の環境づくりを進めるとともに、情報発信・情報共有のあり方を見直し、町民が誇りに思い、国内外のさまざまな人々に愛され、関わりたくなる「学びのある島」ブランドの確立をめざします。

さらに、「学び」という共通価値で、世代や地域、国籍などを超えて人々がつながり、社会課題の解決や新しいチャレンジを実践できる「学びのプラットフォーム<sup>15</sup>（P33に解説文を記載）」化を進めます。

### 《協働の役割イメージ》

協働の主体	協働の役割イメージ
町	● 学びの価値を生む多様な層の参画の場づくりを調整します。
学校教育機関等	● 学びの価値を生む多様な層の参画の場に、学校教育の専門的な知見と指導者を有する立場として参画します。
関係機関	● 学びの価値を生む多様な層の参画の場に、さまざまな学びの機会を提供する NPO 等公益的な団体が、知見と指導者を有する立場として参画します。
町民	● 学びの価値を生む多様な層の参画の場に、島の暮らしに継承されてきた知恵や技を伝え、提供できる立場として参画します。 ● 「学びのある島」について知り、学ぶ機会として参加します。

<sup>15</sup> 一連の事の制御・調整・共用に供する基盤。

## (2) 未来を担う人材育成環境の充実～人がかがやく教育環境づくり

独立行政法人国立高等専門学校機構広島商船高等専門学校や広島県立大崎海星高校、広島県立広島叡智学園（平成31年4月開校）等、寮生を有する教育機関やAUST等、大崎上島町の地域資源を学びに活用する教育機関や組織等、多様な人材が本町での学びを実践しています。

また、「何を知っているか」だけではなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」を重視した、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力や人間性等、すべてを総合的に育もうとする「アクティブ・ラーニング<sup>16</sup>」がますます重視される時代にあって、本町の自然環境や歴史文化、暮らしの知恵などに代表される地域資源を活かした教育活動への期待が高まっています。

このため、本町の地域資源を活用したプログラムの構築と、学校と地域を効果的につなぐことのできるコーディネート人材等を育成する環境づくりを進めます。

### 《協働の役割イメージ》

協働の主体	協働の役割イメージ
町	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存学校教育機関との連携を拡充します。</li> <li>● 新たな学校教育機関の開設をともに進めます。</li> <li>● 学校教育に本町ならではの学びを盛り込む上での調整を図ります。</li> <li>● 出身地を離れて島で学ぶ生徒の生活面について支援体制を調整します。</li> </ul>
学校教育機関等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本町ならではの学びを取り入れ、継続した取り組みを進めます。</li> </ul>
関係機関	(学びの機会を提供する NPO 等公益的な団体) <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校教育に本町ならではの学びを盛り込むプログラムづくりや実施に協力します。</li> </ul>
町民	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校教育に本町ならではの学びを盛り込むプログラムづくりや実施に協力します。</li> <li>● 出身地を離れて島で学ぶ生徒の生活面について支援、協力します。</li> </ul>

<sup>16</sup> アクティブ・ラーニング：学習者である生徒が受動的となってしまう授業を行うのではなく、能動的に学ぶことができるような授業を行う学習方法。生徒が能動的に学ぶことによって「認知的、倫理的、社会的な能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。

### (3) 学びの資源を活かした交流機会の拡充 ～学びを生かした交流事業づくり

「教育の島」の推進により、本町の学校教育機関で学ぶ児童・生徒や教育関係者をはじめ、学びの魅力への共感からさまざまな来訪者が増加し、多様化することが期待されます。

これに伴い、人々が島の学びの魅力と真価を体感できる交流プログラムへのニーズはさらに高まることが予想されます。

このため、本町の美しい自然環境、歴史文化、海と里山の生産環境、島の生業などを素材に、それぞれの資源に精通する町民を学びの担い手とする「学びの交流コンテンツ」を開発します。地域資源と人材を生かした魅力ある交流プログラムを開発するには、本町ならではの価値と対象者のニーズをコンテンツ化できる企画人材が欠かせません。そこで、外からの視点で島の魅力を発見することのできる町民や町外在住の関係人口などを巻き込むため、交流プログラムを修得する講座などを開催し、交流コンテンツの魅力化に取り組みます。

さらに、交流プログラムの実践にあたっては、お試し支援などの仕組みを検討し、地域・各種団体・町内事業者・町民等有志などによる自律的なチャレンジを応援する仕組みを整えます。

以上のような「学びの交流コンテンツ」開発を担う人材育成と運営支援の仕組みづくりにより、「学び」を基軸とする地域の経済活動を促進します。

#### 《協働の役割イメージ》

協働の主体	協働の役割イメージ
町	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本町の学びの価値を生かした交流コンテンツを創造する企画人材の育成とプロジェクト化を進める機会を提供します。</li> <li>● 学びの交流コンテンツを事業化しようとする個人・団体を支援します。</li> </ul>
学校教育機関等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本町ならではの学びを取り入れ、継続した取り組みを進めます。</li> </ul>
関係機関	<p>(町各経済団体や生産者、事業者等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各学びの交流コンテンツの展開を機会に、経済活動に結び付ける意欲をもつ個人・団体等が事業化に取り組みます。</li> </ul>
町民	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本町の学びの価値を生かした交流コンテンツの創造に参画したい個人が人材育成機会などに主体的に参加します。</li> <li>● 企画した学びの交流コンテンツについて、自ら実施する意欲をもつ個人やグループが事業化に取り組みます。</li> <li>● 学びの交流コンテンツの提供主体に協力します。</li> </ul>

#### (4) 町民生涯学習機会の拡充 ～学びとつながりの喜びを実感できる環境づくり

本構想の推進を通じて、本町に国内外から教育関係者やさまざまな学びに関する専門人材等が来訪する機会が拡充します。また、本章4(2)で記載したとおり、新しい教育ニーズに基づき、町民の有する島の暮らしで継承してきた知恵や技術などを生かし、児童・生徒・学生・一般来訪者等に住民自身がその価値を伝える機会も増加することが予測されます。

こうした学びの資源や機会の充実を踏まえ、町民の生きがいをづくり、異文化交流による地域社会における多様性意識の醸成、コミュニケーション能力の向上などを目的とする、町民のための生涯学習の機会拡充と質の向上を図る取り組みを進めます。

また、既存の生涯学習活動を生かしながら、町民ニーズの高い分野を中心に関係機関との連携を図り、町民だれもが学びとつながりの喜びを実感できる環境づくりを進めます。

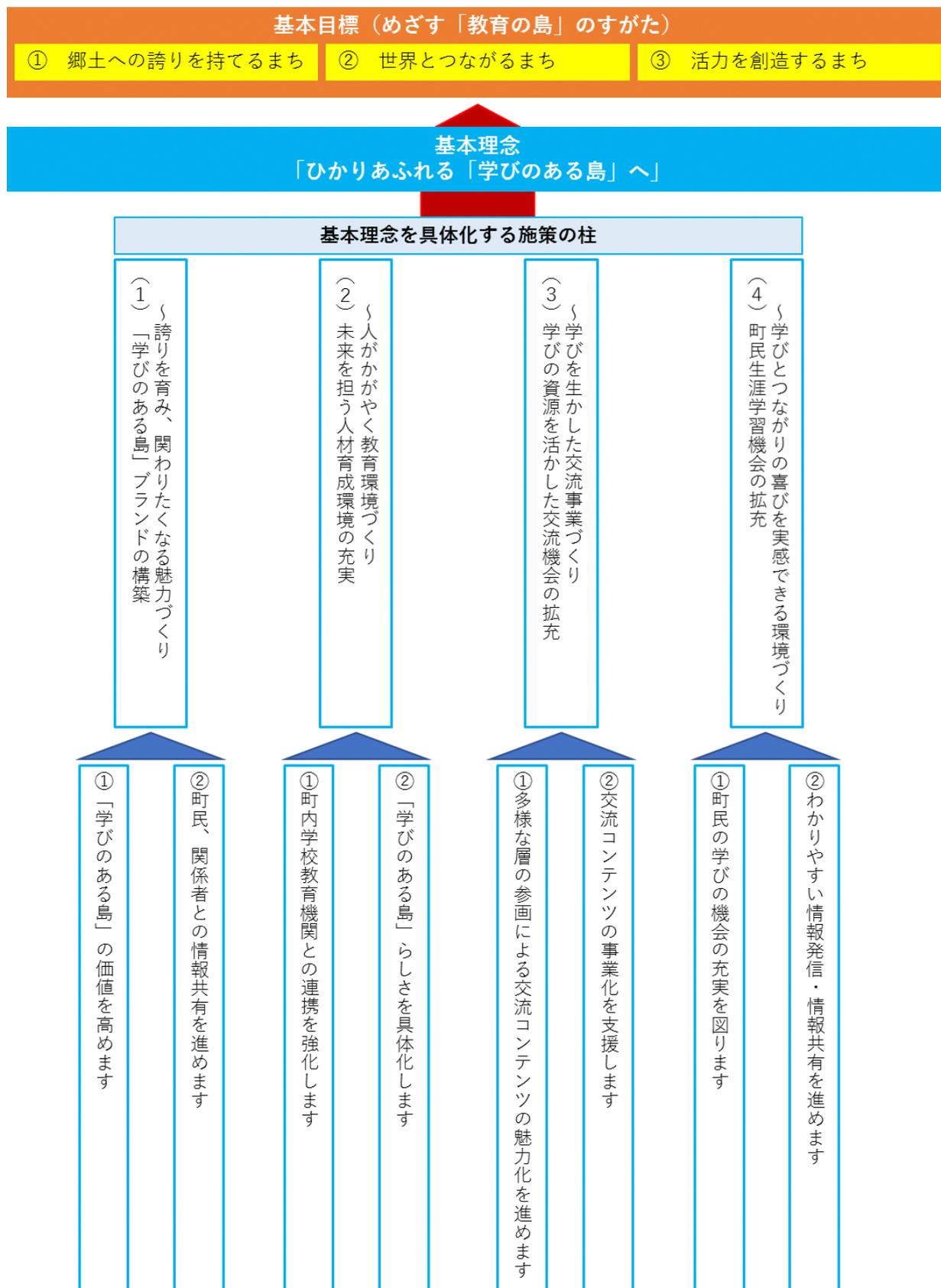
その上で、町民誰もがライフステージや関心にあったさまざまな学びの機会を共有でき、自ら情報発信することで、主体的に学びの機会に参加することのできるよう、町民視点からの情報共有・情報発信に取り組みます。

#### 《協働の役割イメージ》

協働の主体	協働の役割イメージ
町	<ul style="list-style-type: none"><li>● 拡充する生涯学習機会や人材を活かし、本町の生涯学習のいっそうの魅力向上に取り組みます。</li><li>● 多様な学びの情報を集約する仕組みをつくり、わかりやすく町民に提供できるよう関係機関と調整します。</li></ul>
学校教育機関等	<ul style="list-style-type: none"><li>● 生涯学習活動への専門人材の派遣や公開講座等の提供等、町民の学びの機会の充実に向けて協力します。</li></ul>
関係機関	(学びの機会を提供している NPO や公益的な団体等) <ul style="list-style-type: none"><li>● 実施する学びに関する情報を集約先に提供します。</li></ul>
町民	<ul style="list-style-type: none"><li>● 積極的に学びの機会を活用します。</li><li>● 自らが学びの提供主体になる機会に積極的に参加します。</li><li>● 参加した様子を SNS<sup>17</sup>などで発信します。</li></ul>

<sup>17</sup> SNS：人と人との社会的な繋がりを維持・促進する様々な機能を提供する、会員制のインターネットサービス。インスタグラム、フェイスブック、ツイッター、LINE などがある。ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略称。

■基本構想の体系図



## 第4章 施策の展開

---

本構想の基本方針に基づき、以下の施策の展開を図り目標の実現をめざすこととします。

### 1. 各基本施策における主な事業の展開

#### (1) 「学びのある島」ブランドの構築～誇りを育み、関わりたくなる魅力づくりの展開

「学びのある島」がめざす価値を共有する人が、世代や地域、国籍などを超えて人々がつながり、本町において社会課題の解決や新しいチャレンジを実践できる「学びのプラットフォーム」の形成に取り組むこととし、以下の事業を展開します。

##### ① 「学びのある島」の価値を高めます

本町の考える「学びの価値」を実感してもらうには、学校教育、社会教育などの「教育施策にかかる専門領域」と「島の暮らしが育んだ知恵や技」を総合的に提供したり、新しく組み合わせてプログラムとして提供したりすることのできる仕組みが必要です。

このため、町民や関係者をはじめ、町外から本構想の推進に関わりたいと考える層が、ともに社会課題の解決や新しいチャレンジを実践し、意見交換を展開する創発の場として「学びのプラットフォーム」機能を有する取り組みを推進します。

なお、この機能として、具体的な機会づくり等を行う際には、積極的に ICT<sup>18</sup>を活用し、人と知のネットワーク化を進めることとします。

##### 【学びのプラットフォーム機能のイメージ】

「学びのプラットフォーム」は、本町の学びに関心をもつ、さまざまな人々が、島の学びの資源を生かしたプログラムに誰でも参画できる仕組みであるとともに、自身が学びのプログラムを企画、提供する立場で参画できる仕組みでもあります。

さらに、「学びのプラットフォーム」に参画することで、一人ひとりの学びの喜びを醸成し、本町の地域貢献、社会貢献、地域や産業における人材としてのスキルアップに活かす機会ともつながっていくことのできる、総合的な学びのコーディネート機能としてイメージしています。

---

<sup>18</sup> ICT: 情報処理や通信に関連する技術、産業、設備、サービスなどの総称。「Information and Communication Technology (インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー)」の略語で日本では「情報通信技術」と訳される。

## 《主な事業》

- 「学びのプラットフォーム」機能の開設
- 「学びのある島」に関わる人と知のネットワーク形成

### ②町民、関係者との情報共有を進めます

本構想を町全体で進める意識の醸成を図るには、町民及び関係者と町にいつそう風通しのよい関係をつくっていくことが大切です。

このため、本構想にかかるさまざまな情報を集約して発信し、多様な層の意見交換を促す機能として「学びのある島・編集部（仮称）」を開設し、町内で学ぶ子ども・若者・関係機関・町民等の積極的な参画を求めることとします。

また、より厚みのある情報共有を行うため、SNSを積極的に活用することとし、関係者や町民からの情報発信との連携を図ります。

## 《主な事業》

- 子どもから大人まで参加できる「学びのある島・編集部（仮称）」の開設

## (2) 未来を担う人材育成環境の充実～人がかがやく教育環境づくりの展開

本町の学校教育機関との連携強化による学びの魅力の向上、地域資源を活用したプログラムの構築、学校と地域を効果的につなぐことのできるコーディネート人材等を育成する環境づくりなどに取り組むこととし、以下の事業を展開します。

### ①町内学校教育機関等との連携を強化します

町内学校教育機関が主体的に展開する地域資源活用型の取り組みとの連携を強化し、学びの魅力向上に努めます。

また、大崎海星高校において運用されている島親制度は、出身地を離れて島で学ぶ生徒の暮らしをサポートするもので、効果をあげている取り組みといえます。今後、広島県立広島叡智学園の開校やアトランティック大学サテライトキャンパス誘致構想などを見据え、島で学ぼうとする若者の志を支える仕組みについて、町民及び関係機関とともに検討を進めることとします。

## 《主な事業》

- アトランティック大学サテライトキャンパス誘致構想協力
- N 高校宿泊型職業体験協力

### ② 「学びのある島」らしさを具体化します

本構想の考える「学び」の価値を、子どもや若者の成長機会に反映することをはじめ、町民の心豊かな暮らしの実現に寄与することが重要です。

このため、「学びのある島」のプログラムに関するさまざまな調整を担うコーディネーター人材を確保し、育成します。

## 《主な事業》

- 「学びのある島」を実践するためのコーディネーター人材の育成

### (3) 学びの資源を活かした交流機会の拡充 ～学びを生かした交流事業づくりの展開

本構想では、教育的効果のみならず地域の経済活動にもよき波及効果を生み出すことをめざしています。

このため、本町で学ぶ子ども・若者や関係機関、町民、さらには関係人口等からのアイデアを募り、広く一般の人々に向けたさまざまな交流コンテンツの魅力化や積極的な実践への支援にも取り組むこととし、以下の事業を展開します。

#### ① 多様な層の参画による交流コンテンツの魅力化を進めます

現在、全国各地でさまざまな交流コンテンツやツーリズムが推進されるなか、利用者に人気の高い企画に共通する事項として、「地域資源と人を重視していること」「主催者と参加者がフラットにつながることでできる自由な雰囲気があること」「未来に関わっている実感がもてること」などがあります。

このため、町内外のさまざまな関心層を対象とし、持続可能な交流コンテンツの企画を学ぶことのできる「学びのある島・交流コンテンツの作り方講座（仮称）」を開設し、企画力と運営ノウハウを有する人材の育成と企画づくりを支援することとします。

## 《主な事業》

- 交流コンテンツを事業化する担い手人材の育成とコンテンツ企画づくり支援
- 子どもから大人まで参加できる「学びのある島・編集部（仮称）」との連携

## ②交流コンテンツの事業化を支援します

「学びのある島」のプログラム開発・提供の取り組みが、教育の魅力化を目的として推進するのに対し、「学びのある島」らしい交流コンテンツは、開かれた関心層に向けたサービスとして事業化することを目的とし、最終的には事業の実施による地域経済効果の創出をめざすものです。

このため、対象層に訴求するプロモーションを実施するとともに、事業化をめざす団体・個人等に対しては、マーケティング調査や事業化に向けて活用可能な町・県・国等の既存制度についての相談対応を行う等、チャレンジしやすい環境づくりを進めます。

### 《主な事業》

- 「学びのある島」らしい交流コンテンツのプロモーションの実施
- 事業化をめざす個人・団体等への支援の実施

## (4) 町民生涯学習機会の拡充～学びとつながりの喜びを実感できる環境づくり の展開

本構想の推進により、さらに充実することが期待される本町ならではの学びの機会をとらえ、学びとつながりの喜びを実感できる環境づくりを進めるため、以下の事業を展開します。

### ①町民の学びの機会の充実を図ります

町内で実施されている既存の生涯学習活動を基盤としながら、本構想の推進により新たに加わる活動についても、町民のニーズに適合するコンテンツについては積極的なメニュー化を図ることとします。

### 《主な事業》

- 「学びのある島」の機会や人材の有効活用による、町民にとって魅力ある生涯学習の推進

## ②わかりやすい情報発信・情報共有を進めます

本町で実施されているさまざまな学びの機会をタイムリーに情報提供できるよう、町と（１）において掲載した、『子どもから大人まで参加できる「学びのある島・編集部（仮称）」との連携を図り、町民にとってわかりやすく役に立つ学びの情報の集約と発信手法について検討することとします。

また、情報発信の手法は世代によって情報の格差が生じないように紙媒体・WEB・SNS等、多様なツールによる展開を図ることとします。

### 《主な事業》

- 町民にとってわかりやすい学び情報の集約と発信
- 子どもから大人まで参加できる「学びのある島・編集部（仮称）」との連携

## 2. 本構想の展開シナリオ

本構想においては、島で学ぶ子ども・若者たち、町民等をはじめ、島を愛する人たちの思いと行動をつなげる以下のような好循環のシナリオを描き、多様な主体により推進することで町全体の活力を高める戦略的な展開を図ります。

### (1) 発見のフェイズ<sup>19</sup>

---

本構想の基本理念である『ひかりあふれる「学びのある島」へ』の考え方にに基づき、島の「学び」に関わる地域資源と人（町民等）の存在を再評価します。

### (2) 活用のフェイズ

---

本町固有の学びの地域資源と人（町民等）の存在を積極的に活用する取り組みを、関係機関や町民などとの連携と協働により具体的に立案します。

### (3) 協働展開のフェイズ

---

関係機関や町民等が立案した取り組みを、町・教育関係者・町民などの協働により展開します。

### (4) 効果創出のフェイズ

---

取り組みの協働展開により、以下のような多様な一次効果の創出を図ります。

《\*一次効果の例》

学びの機会の質の向上、指導者人材の充実、世界で活躍する人材の輩出、町民が学びと交流の喜びを実感できる機会の充実、学びをテーマにする移住者や関係人口の拡充、町内各種団体（各経済団体・生産者・商工観光事業者・NPO等）による経済活動機会の増加、本構想に基づく具体的な取り組みを支える担い手人材・関わり人材の充実等。

---

<sup>19</sup> フェイズ：変化や発達するものなどの段階、局面。

## (5) 成果達成のフェイズ

本構想の以下の3つの「基本目標」達成に向けて、多様な一次効果の相乗性向上を図り、着実に成果を重ねていきます。

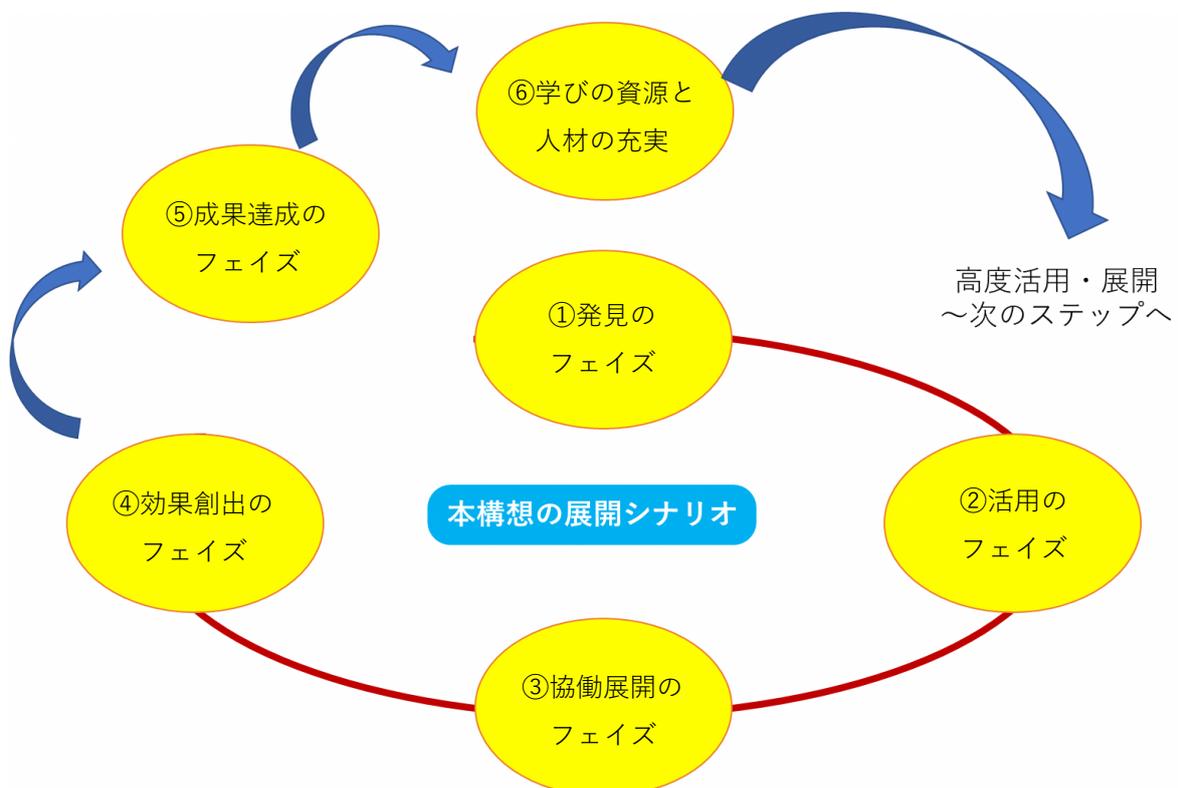
- ①郷土に誇りを持てるまち
- ②世界とつながるまち
- ③活力を創造するまち

なお、学びの環境にかかる効果にとどまらず、町民生活全体の活力向上をめざして策定した本構想の特性を踏まえ、成長シナリオにおいても社会効果及び経済効果の創出を含めて設定します。

## (6) 学びの資源と人材の充実

事業着手時に発見した地域資源や人の魅力について、上記のプロセスを経て、さらに充実する状況を実現し、取り組みへの高度活用や多様な展開に活かします。

### ■本構想の展開シナリオ図



### 3. 本構想の推進体制

平成 30 年度以降の本構想の推進にあたっては、本構想の理念を継承できるよう引き続き、町・町内学校教育等関係者・町民が中心となった構想推進主体を構成し、より具体的な実施計画及び実施スケジュールを検討し、とりまとめていくこととします。

## 參考資料

---

## 1. 本町の教育関連施策の状況

### (1) 本町各種計画における主な取り組み・施策

#### ① 大崎上島町第2次長期総合計画

重点プロジェクトである「教育の島プロジェクト（人材育成）」に記載された、《関連する施策》を以下の通り整理しました。

《関連する施策》
<ul style="list-style-type: none"> <li>●人間力の基礎となる豊かな心の育成</li> <li>●健やかな体の育成</li> <li>●進路を切り拓く確かな学力の育成</li> <li>●保護者・地域と連携した学校づくりの推進</li> <li>●歴史的・文化的風土づくりの推進</li> <li>●生涯学習推進体制の整備</li> <li>●まるごと島体験事業</li> </ul>

主な取り組み・施策	施策の内容
生涯学習推進体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業文化祭への参加促進、公民館教室・文化団体などの単独・共同発表会開催支援</li> <li>・「大崎上島学」の推進</li> </ul>
豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の充実</li> <li>・「大崎上島学」の推進（発達段階に応じた教育プログラムづくり）</li> <li>・山・海・島体験活動</li> </ul>
健やかな心身の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力づくりの推進</li> <li>・健康教育の推進</li> <li>・食育の推進</li> <li>・防犯・防災教育の推進</li> </ul>
確かな学力の定着・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研究推進体制の確立</li> <li>・特別支援教育の充実</li> <li>・ICT 機器整備事業</li> </ul>
信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大崎上島学」の推進（保護者、地域の理解・協力を得る）</li> <li>・学校教育活動の公開</li> </ul>

歴史的・文化的風土づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料館（海と島の歴史資料館、ふれあい郷土資料館、大崎郷土資料館）の運営・活用</li> <li>文化財・芸能保存団体の支援</li> <li>既存文化財の整理とデジタル化及び保存と活用に向けての計画づくり</li> <li>おまつり図鑑（仮称）の作成</li> <li>生活文化の掘りおこし</li> </ul>
体験型修学旅行の誘致	<ul style="list-style-type: none"> <li>まるごと島体験事業</li> </ul>
生涯学習推進体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業文化祭への参加促進、公民館教室・文化団体などの単独・共同発表会開催支援</li> <li>「大崎上島学」の推進</li> </ul>

## ② 大崎上島町まち・ひと・しごと総合戦略

### ■総合戦略の体系

政策分野	施策の方向	主な施策
1 多様な人材を育てる教育の島づくりを進める	(1)人材育成の推進	①「大崎上島学」等による町への愛着に富む人材の育成
		②既存の後期中等教育学校及び高等教育学校の活性化
		③多様な人材の受入れによるグローバル人材育成
	(2)多様な主体の参加によるまちづくりの推進	①若者・定住等地域リーダーの育成
		②集落支援員の設置と活動支援
		③地域おこし協力隊活動支援
(3)地域活動の支援	①コミュニティ活動・地域活性化の支援	
2 新たな人の流れで住んでよかったと実感できる	(1)定住・移住の促進	①定住・移住を促進するための環境づくりの推進
		②定住・移住の促進支援
	(2)空き家対策の推進	①空き家バンク情報の充実
		②計画的な空き家対策の推進
	(3)大崎上島町の情報発信	①大崎上島町の情報発信の充実
		②修学旅行・民泊の受入れ促進

3 地域資源を活かして仕事と産業を育てる	(1) 既存産業の育成・活性化	①各種産業の活性化支援
		②特性を活かした連携による産業の振興
		③既存ストックマネジメントの推進
	(2) 商工業・観光業の振興	①特産物の活用と6次産業化の推進
		②観光ツール・観光拠点周辺整備など観光の環境づくりの推進
	(3) 地域の強みを活かした雇用の場と担い手づくりの推進	①雇用の場の確保と職業訓練の支援
		②雇用に関する情報提供・相談等の推進
	(4) 広域連携による施策の推進	①広島広域・広島中央圏域内での連携による施策の推進
4 癒しと元気な地域で安心して暮らす	(1) 子育て支援・子どもの育成支援	①子どもの育成支援と家庭教育の推進
		②男女共同参画の推進
		③子育て支援の総合的な推進
	(2) 豊かな高齢社会の形成	①介護予防と地域包括ケアの推進
	(3) 健康づくりの推進	①重症化予防と食育の推進
		②通院に関する支援と救急医療体制の確保
	(4) 安全で快適なまちづくりの推進	①安心・安全なまちづくりの推進
		②住まいの確保と住環境の向上

#### ④ 大崎上島町教育推進プラン・大崎上島町教育ビジョン

##### ○ 「大崎上島学」の概要

「大崎上島学」の目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動全体を通じて、ふるさと大崎上島を学ぶことによって地域のすばらしさに気づかせ、地域を誇りに思う心を育てる、</li> <li>・地域の人材やネットワークとの強い絆を作り、相互に連携して地域の発展に貢献する態度を育てる。</li> <li>・学びから得たエネルギーを「知・徳・体」の力に変換させる能力を育てる。</li> </ul>	
「大崎上島学」の実際	
教科領域学習の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を学ぶカリキュラムの創造（総合的な学習の時間等）</li> <li>・地域教材・地域人材の活用</li> </ul>

各種教育の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域から学ぶキャリア教育（地域産業と職業観・勤労観）</li> <li>・地域から学ぶ食育（生産者との交流、郷土料理づくり）</li> </ul>
学校行事の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事を通してふるさと大崎上島への帰属意識と良好な人間関係の育成</li> <li>・地域へ貢献する学校行事（ボランティア活動）</li> </ul>
地域行事の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事への参加・連携（各地域伝統行事）</li> <li>・地域のスポーツ・文化的活動との連携</li> </ul>

## 2. 本町の主な教育機関等

### （1）学校教育機関等

#### ①大崎上島町立幼稚園・小学校・中学校

目標	ふるさとを愛し 大崎上島の未来を担う 人材の育つまち
基本方針 (幼児・学校教育)	「大崎上島町教育推進プラン」による教育を推進し、本町で学び、育っていく子どもたちがふるさとを愛し、誇りを持って次代の担い手としてたくましく成長できるように、学校と家庭、地域が連携しながら、子どもの育つ教育環境の充実を図ります。
町立幼稚園・小学校	<p>&lt;幼稚園&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大崎幼稚園（中野 2115 番地）</li> <li>・木江幼稚園（沖浦 125 番地）</li> </ul> <p>&lt;小学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大崎小学校（中野 2078 番地 1）</li> <li>・東野小学校（東野 1845 番地）</li> <li>・木江小学校（沖浦 249 番地）</li> </ul> <p>&lt;中学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大崎上島中学校（中野 5603 番地）</li> </ul>
理念・目標	<p>&lt;大崎小学校&gt;</p> <p>（学校教育目標）</p> <p>自ら学び 心豊かで たくましい子供の育成</p>

	<東野小学校> (学校教育目標) 「自分を大切に 他人を大切に ふるさとを大切にする東野っ子の育成」 <木江小学校> (学校教育目標) 「自ら 学ぶ」 <大崎上島中学校> (教育目標) 「豊かな心と高い志を持ち、自ら学ぶ生徒の育成」
--	--

## ②私立幼稚園・認定こども園

### ○幼稚園

名称	学校法人正光坊学園 ルンビニ幼稚園 (東野 2426 番地 1)
理念・目標	<b>【教育目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 宗教教育をベースにした子供の情操面に重点をおく。</li> <li>● 地理的条件・気候風土・人情等、ふるさとの子供としての特質を生かし、郷土愛と人を愛する気持ちを育てる。</li> </ul>
基本姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>● やさしいふれあい</li> <li>● のびのび教育</li> <li>● 適切なしつけ</li> </ul>

○私立認定こども園

名称	社会福祉法人神峰福祉会 認定こども園ひかり園 (中野 3838)
理念・目標	<b>【教育及び保育の目標・理念】</b> 子どもが現在最もよく生き、望ましい未来を創り出す力の基礎を培うことを目標とし、家庭との連携を図りながら、一貫した教育及び保育を実施する。
めざす子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 心身共に健康でしなやかな子ども。</li> <li>● よく見、よく聞き、よく学び、よく考え、創造し、自ら行動する子ども。</li> <li>● 友達や自然を大切にし、慈しみの心にあふれた子ども。</li> </ul>

③高等学校

名称	広島県立大崎海星高等学校 (中野 3989 番地 1)
理念・目標	<b>【教育目標】</b> 主体的に行動できる人間の育成 自らを律することができる人間の育成 意欲的に学び、創造できる人間の育成
育成すべき生徒像	「大崎上島」で学んだことに誇りを持ち、胸を張って「大崎上島」を語り、多くの人々と協働して、「大崎上島」を活性化するための「新たな価値」を生み出すことのできる生徒

#### ④特別支援学校

名称	広島県立三原特別支援学校大崎分教室（中野 2078）
理念・目標	<p><b>【学校教育目標】</b></p> <p>障害のある児童生徒の能力や可能性を最大限に伸ばし、自立、社会参加そして社会貢献を行うための基盤となる「生きる力」を培う。</p>
育成すべき児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ルールを守り、挨拶等礼儀正しい児童生徒 <b>【礼儀】</b></li> <li>● 感謝の心を持ち、それを伝えることのできる児童生徒 <b>【感謝】</b></li> <li>● 自分を大切にし、自らを高めようとする児童生徒 <b>【挑戦】</b></li> </ul>

#### ⑤高等専門学校

名称	独立行政法人 国立高等専門学校機構 広島商船高等専門学校（東野 4272-1）
理念・目標	<p><b>【教育理念】</b></p> <p>本校は、豊かな人間性、強い精神力及び高い倫理意識を持ち、将来社会において活躍するための知識と技術を身につけ、さらに生涯にわたって学ぶ力を備えた人材を育成する。</p>
育成すべき人材像	<p>（本科）</p> <p>工学基礎教育、体験重視型の早期創造教育と人間教育により、基盤となる幅広い知識・技術とともに、特定の専門領域において基礎的知識・素養をしっかりと身につけた実践的・創造的技術者を育成する。</p> <p>（専攻科）</p> <p>特定の専門領域における高度の知識・素養を使いこなし、複合領域に対応できる幅広い視野を身につけ、高い課題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者を育成する。</p>

## ⑥中高一貫校

名称	広島県立広島叡智学園（平成31年4月1日開校予定） （大串）
育成する人材像	社会の持続的な平和と発展に向け、世界中のどこにおいても、地域や世界の「より善い未来」を創造できるリーダー
重点的に育成する力	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 様々な場面で活用できる知識・技能の深い理解</li> <li>● 新しい価値を生み出す創造的・批判的思考力</li> <li>● 異なる文化・価値観を持つ人々と協働する力</li> <li>● 目標に向かってやり抜く力・自信</li> <li>● 日本語でも英語でも議論・協働できる高い語学力</li> </ul>

### （3）主な教育交流活動・交流事業等

タイトル・名称	実施主体	交流・連携
「大崎上島学」	大崎上島町教育委員会 公立幼稚園・小学校・中学校	地域資源の活用、地域人材と連携
	広島県立大崎海星高等学校	地域資源の活用、地域人材と連携
課題発見・解決学習 「夢☆ラボ」	広島県立大崎海星高等学校	地域資源の活用、地域人材と連携
「地（知）の拠点大学 による地方創生推進事業 （大学COC事業）」	独立行政法人 国立高等専門 学校機構 広島商船高等 専門学校	地域資源の活用、地域人材と連携
HELIO SUMMER PROGRAM	一般社団法人東アジア初の アショカUの発足・設立を 支援する会	地域資源の活用、地域人材と連携
『教育の島』を考える 公開シンポジウム	一般社団法人東アジア初の アショカUの発足・設立を 支援する会	海外大学教授の招聘、教育交流
宿泊型職業体験	N 高校	地域資源・人材の活用、教育交流

安田女子大学現代ビジネス学科 学科別セミナー 「大崎上島町で学ぶ」	安田女子大学	地域資源・人材の活用、教育交流
--------------------------------------	--------	-----------------

#### (4) 町民文化活動等

分類	名称
伝統文化・祭り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木江十七夜祭</li> <li>・ ひがしの住吉祭</li> <li>・ 古社八幡神社秋祭り</li> <li>・ 御串山八幡神社秋祭り</li> <li>・ 八幡神社秋祭り</li> <li>・ 恵美須神社秋祭り</li> <li>・ 日吉神社秋季大祭</li> <li>・ 大崎上島サマーフェスティバル</li> </ul>
公民館教室	<p>《大崎地区》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵画・陶芸・七宝焼・絵手紙・俳句・語学（韓国語・英語）・囲碁・謡曲・コーラス・大正琴・書道・パッチワーク・和裁・茶道・生花・フラワーアレンジメント・体操・ヨガ・太極拳・銭太鼓</li> </ul> <p>《東野地区》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵画・水墨画・陶芸・尺八・大正琴・篠笛・邦楽・三味線・太鼓・民謡・俳句・日本舞踊・フラダンス・ヨガ・太極拳・絵手紙・料理・環境</li> </ul> <p>《木江地区》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太極拳・体操・陶芸・民謡・俳句・吟詠・写真</li> </ul>



---

平成29年度

大崎上島町教育の島交流基本構想

平成30年3月

広島県 大崎上島町 総務企画課

---